

助成活動実績報告書

企画名	第16回あかいわエコメッセ（環境企画展）
団体名	あかいわエコメッセ

① 目的について

1986年のチェルノブイリ原発事故以来、地域で、子どもから大人まで参加型の環境企画展を開催しています。2011年3月の福島原発事故以降、原発の再稼働をはじめ、首相自ら海外への原発セールスなど、世界は原発からの撤退の方向に進んでいるのに、日本は逆行する政治が進んでいます。一番の問題は電力会社と政府、御用学者による情報の隠蔽です。そしてマスメディアの自粛報道が深刻になっています。正確な情報を市民へ提供することが一番求められています。

この間専門家やジャーナリストらを招いて講演会や、上映会等を開催してきました。さらに例年楽しみにしていただいている、子どもたちのワークショップ、地産地消の農産加工品の紹介・抽選会など、子どもから大人まで楽しみながら参加できる企画を続けています。

② 内容について

8月23日は、守田敏也さんによる「フクシマの真実と未来への希望」と題する講演、引き続き蝦名宇摩さんと娘さんによる津軽三味線、民謡など演奏会が盛況のうちに行われました。

8月24日は、大塚尚幹さんによる「新たな暮らし方の提案」と題してソーラー発電と電力会社との契約をしないで独立型電力自給の暮らし方という興味深いお話を聞きました。また両日無料で、開催した写真パネル展も好評でした。

・広河隆一さん「チェルノブイリから28年」・加藤晋平さん「家族のかたち・岡山へ避難、移住した人びと」・佐々木真理さん「チェルノブイリの汚染地で生きる青年や子どもたち」

例年好評の地産地消コーナーでは、地元の無農薬米粉を使った各種パン、ブドウ、なす、スイカ、有精卵など農産物、味噌など加工品、園芸苗など例年地域のみなさんのご協力で提供していただいた物品を参加者のみなさんにプレゼントしました。夏ボラの中学生たちも、展示物の説明や、図書館利用者に写真展の案内の声懸けをするなど、積極的に協力してくれたことで、参加者から喜ばれました。

8月23日講演会の参加者：70人、8月23・24日の写真パネル展・大塚尚幹さん講演会参加者：約120人

③この活動によって達成された成果

原発立地も無く、福島から遠い赤磐市の市民にとって、エコメッセが毎年企画を続けることで、原発のリスク、事故は起こる、被曝地は再生できない、ふるさとは戻らないという深刻な事実に向き合う機会を作っています。そしてこれからの自然エネルギーのあり方について、選択肢を提案しています。ささやかな企画ではありますが、今年で17年になります。真実を知りたいという避難者たちの切実な要求に全力で応えたい。そして昨年5月に福井地裁が「きわめて多数の人の生存そのものに関わる権利と電気代の高い低いの問題とを比べて論じるような議論に加わったり、その議論の当否を判断すること自体、法的には許されない。原発の運転停止によって多額の貿易赤字がでるとしても、これを国富の流失や喪失と言うべきで無く、豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失である。」と大飯原発から250キロ圏内の住民に原告の資格を認めました。少しずつですが司法も良識のある判断を始めました。発言に影響力のある芸能人などからも従来なかった発言が堂々とされるようになってきました。粘り強く声を上げ続けることの意味をかみしめています。

市民がエネルギーのあり方を考えることは、環境問題の要であると思います。

④今後の計画・展望について

- ・予定 8月中の土、日の2日間、赤磐市中央図書館 多目的ホール、映画上映会または講演会を1日
写真展 広河隆一さん、加藤晋平さんなど、子どもむけワークショップ、地産地消・地域の農産加工品の展示、抽選会、原発事故の最新情報、自然エネルギーの紹介など、夏ボラの中学生の参加
- ・広報手段
チラシ作成、学校への配布、ポスター作成、メディアへの告知、市の広報紙、インターネットなど